

市町村合併ー岡山市でシンポ その功罪を考える 効率化だけを言っている状況ではない



第36回「都市問題」
公開講座『市町村合併ーその功罪を考える』

が昨年10月19日、岡山県職員会館で開かれ、その内容がブックレットになって発売されました。

主催は後藤・安田記念東京都研究所で、昨年8月に『平成の市町村合併ーその影響に関する総合的研究』を発表しています。

旧町の要望はほとんど応える

2005年に1市4町が合併した岡山県新見市の石垣正夫市長は、「人口3万4000人の市で5年間に20%の職員を削減し、年間9億円弱の職員給与を削減できた」と発言。

しかし、「新市になって旧町のほうはかなりさびれた」ので、「中心部が良くなっても周辺部が良くならなければ問題が起きる」として、旧町から来た要望は水

道整備や道路改良など「ほとんど応えることにした」と述べ、「新見市になってよかつたという声がたくさん聞かれるようになった」と発言しています。

「お太助ワゴン」

2004年3月に6町が合併した広島県安芸高田市の浜田一義市長は、「合併したおかげで、文化を広いエリアでとらえて全国発信する体制ができた。神楽文化を東京や大阪にも発信し非常に人気がある」「過疎地の交通は広域的に考え、朝晩を除いて路線バスの運行を止め、家々を回って行く『お太助ワゴン』を走らせている」と述べています。

合併市が人口減

合併しなかった岡山県西粟倉村の道上正寿・前村長は、「岡山県内27市町村の人口推計と高齢化率では合併した県北の人口減が激しく、合併しない南部の中堅的な町が人口面で頑張っている」と述べ、「小さな村の課題を明確に

駒止(こまどめ・遊佐町吹浦)

大沼 浩

車のない昔、馬が主要な交通手段でしたが、道路交通の用語に駒も用いられました。吹浦に小字駒止があります。鳥海ブルーラインの途中です。これからは「高ヤピンカーブの連続」になります。芭蕉に随行した曾良の日記には、同じ遊佐町女鹿に「是より難所、馬足不通」とあります。

大言海は、馬は大馬(おほま)から「うま」になり、駒は小馬(こま)であったが、普通の馬をいうようになった、と

寄せてきた場合に、人口が減った上に効率化すると、さらに人口が減って、行政サービスが落ちて、さらにまた人口が減って...という悪循環のスパイラルが生まれつつあるのではないか。これからはもう効率化だけを言っていれば良いというような状況ではない」と述べています。

悪循環スパイラル

山陽新聞倉敷本社編集部副部長の小寺幸治氏は、合併市の行革について「今、人口減少、景気悪化と一緒に押し

長沼小 初の複式学級の卒業生

長沼小学校(笠原正三校長・児童数41人)の卒業式が3月18日開かれ、4人の卒業生が巣立ちました。

鶴岡市に合併後の2008年4月に入学した時は3人で、長沼小で初めての複式学級と



なり、4年生の時に1人編入し、複式学級で6年間育ちました。1年生の時に複式で担任した齋藤睦子先生は、お祝いのメッセージで、「みんなの心配をよそに、落ち着いて学習し、いつでもみんなが相談しながら一つ一つのことを乗り越えていく姿がとてもほほえましかったです。」と書いています。

6年生の担任の岡部尚子先生は、「複式でたくさん先生から教えてもらって子どもたち一人ひとりがすばらしい。卒業担任は先生方みんな」と話し、笠原正三校長は、「この子どもたちは一つの質問に一つの答えを言うのではなく、みんなで意見を言い合い、教え、学び合う」と語り、自身も複式学級で育ってきた述べ、複式の良さを語っています。

卒業生の懐かしい「仰げば尊し」の合唱があり、先生方も2番を歌い合い、複式学級ならではの卒業式でした。

